

総務文教常任委員会活動レポート

開催日：令和6年7月1日(月)

開催場所：中標津農業高校

中標津農業高校様との懇談会

農高の生産物は、町民にもふるさと納税の返礼品としても大変人気が高いことから、現在は町に全額納められている生産物の売払い収入の一部を学校に還元し、更なる充実を図る原資にするとともに、生徒は起業について授業で学んでいることから、生産物を活かして経営センスを培っていくことができるのでは、という観点で懇談会を実施したので、その内容について報告します。

- ・農高の生産物は、食品衛生科で乳加工品（プリン、チーズなど）、肉加工品（ソーセージ、ベーコンなど）、農産加工品（パウンドケーキ）など19品目、生産技術科では生乳及び乳製品（ヨーグルト、チーズ）、花や野菜で、いずれもカリキュラムに沿った生産、製造を行っています。
- ・文科省の指導要領改訂により、年間の実習時間が食品衛生科で65時間、生産技術科で42時間程度と減少したことに伴い、コロナ前との比較で売り上げ金額は1/3程度に減少しています。
- ・町からの原材料費180万円は、各科に配分されおおよそ300～400万円の売り上げとなります。実際に算出はしていませんが、光熱費や消耗品などの経費を除くと大きな金額にはなりません。
- ・また学校として、生産活動は教育の一環として行っているものであり、起業の考えが必ずしもすぐわないという考えも聞かれました。
- ・その一方で、ふるさと納税の返礼品として、農高の製品詰め合わせ30セットは例年即売状態が続いていることから、企業や団体に製造委託の可能性についても打診があれば検討の余地があること、売り上げの一部を原資として還元された場合は、検討して進めていきたいとのことのお話もありました

懇談に参加いただいた先生たちからは、以下のようなお話や要望が寄せられました。

- ・パウンドケーキを保管するための冷凍庫は現在加工センターのものを使用していますが、家庭用の冷凍庫で150本しか収容できません。大きな冷凍庫があれば、本数自体は増産することが可能です。
- ・パウンドケーキは一本のまま販売していますが、ハーフサイズやカットして小分けで販売の要望が寄せられています。ハーフサイズは型を工夫して焼くことは可能ですが、小分け販売用のパッケージに使用する袋、シールなどの消耗品が倍かかるため予算がありません。ここをクリアできると販売個数を増やせます。また、他校では

シールを業者に委託して見栄えの良いものを使っているところもありますが、農高ではシールもすべて自前で作っています。予算があれば、こういうところにも手をかけられます。

- ・ふるさと納税の返礼品については、これまでＪＣ（青年会議所）や役場から話がありましたが、商品開発には多額の資金が必要であり、どの程度の規模を目指すかによっても変わってくることから実現に至っていません。
- ・起業については、小樽商科大学との包括連携により生産技術科で授業を行いました。が、いまだ手探り状態です。いずれにしても単年度で終わるものではありません。
- ・酪農大学との連携で商品開発した「もちりっとサンド」は、町内のパン屋さんに委託し商品化の方向で進んでいますが、前作のパンも商品化当初は話題となりましたが、その後あまり売れなくなりました。商品化にはそうしたリスクがあることも考えないといけません。

上記のほか委員からは、今後遠方からの入学希望者が増えた際には、寄宿舍の検討も必要ではないかとの質問がありましたが、ここ数年はそのような問い合わせはないとのことです。

懇談にご対応いただいた皆さま、大変にありがとうございました。